

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第7週〔2月15日～2月21日〕

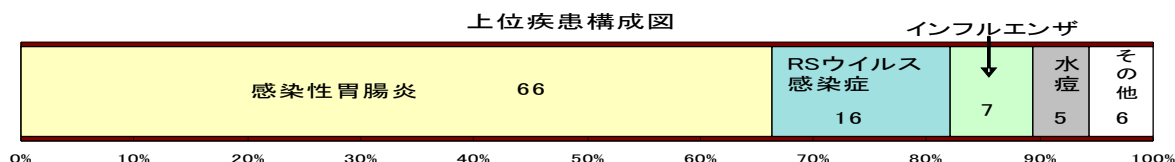
高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>  
E-mail: kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 県内情報

### ○ 患者情報総評

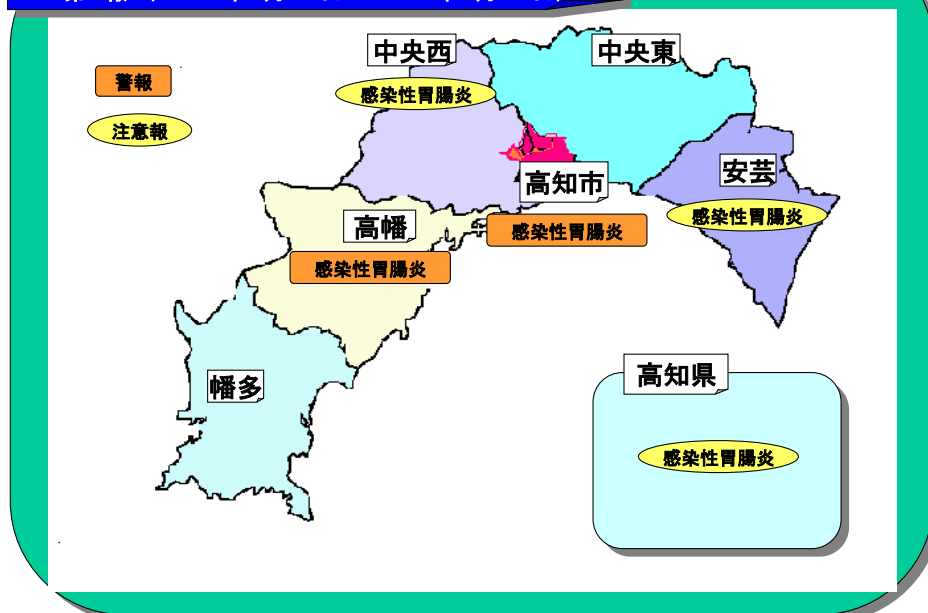
#### 注意報発令疾患：感染性胃腸炎

- ・ 晴れの日が多かったが、気温は平年並みか低い日が多く、厳しい寒さが戻った。
- ・ 感染性胃腸炎（高知市：警報→警報，高幡：注意報→警報，中央西：警報→注意報，安芸：注意報→注意報）は高幡を除く地域で減少し，総数は減少に転じた。
- ・ インフルエンザは安芸を除く地域で減少し，総数はさらに減少した。
- ・ RSウイルス感染症は中央東と高知市で減少したが，その他の地域で増加し，総数も増加に転じた。
- ・ 水痘は地域毎には増減がみられ，総数はやや増加したが，低いレベルを保っている．今後，例年並みの報告数に増加してくるか注目される。



## 地域別感染症注意報・警報発生状況

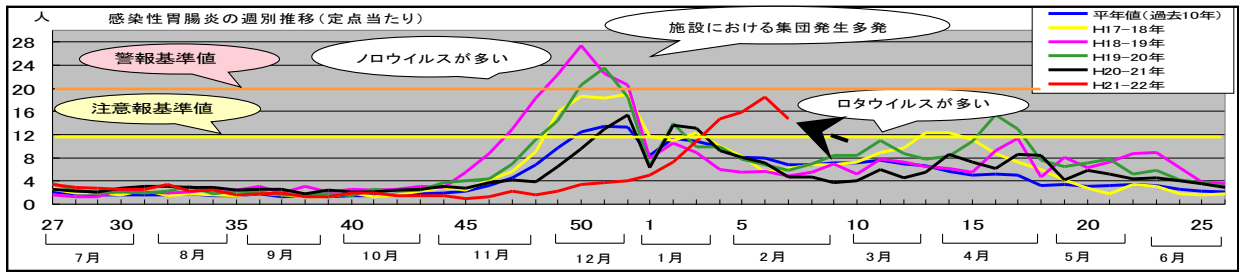
第7報（2010年2月15日～2010年2月21日）



### 感染性胃腸炎：今週14.83（注意報値：12.00 警報値：20.00）

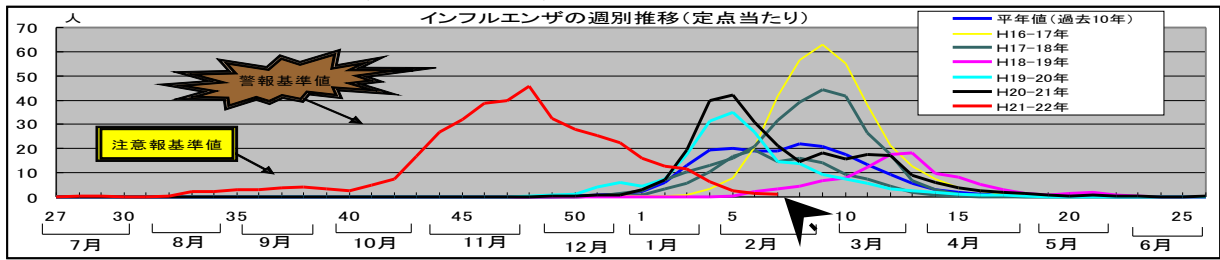
高幡で増加したが，その他の地域では減少し，中央東に続き幡多でも注意報値を下回った．総数は年末年始を含む第53週を除いて，第48週以降増加を続けていたが，今冬シーズン初めて減少に転じた．今週集団感染は確認されていないが，搬入された検体からはNorovirus GIIが4件検出されており，今後も引き続き注意が必要である．予防策としては，帰宅時や食事前等の十分な手洗いとうがいが必要である．その他ノロウイルス対策として「高知県ノロウイルス対策マニュアル」が下記のホームページに掲載されているので，参考にして頂きたい．

<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/kansenshou/noro.html>



**インフルエンザ：今週1.00（注意報値：10.00 警報値：30.00）**

総数はさらに減少し、定点当たり1.00となり終息に向かっていると思われる。全国的にも同様の傾向であり、このまま終息していくのか、今後の動向が注目される。施設別発生状況については、2月14日～2月20日の1週間で、患者数10名、1施設で学年閉鎖の措置が取られている。



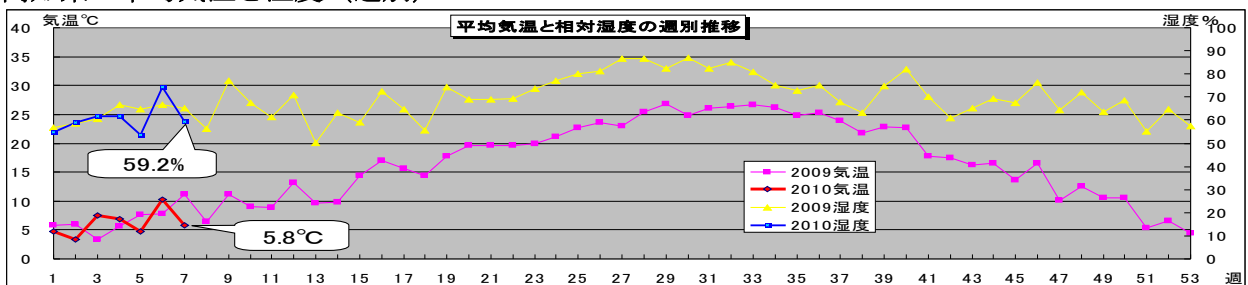
○ **検査情報**

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
6	百日咳	3歳男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
6	マイコプラズマ肺炎疑	1歳男	高幡	<i>Bordetella pertussis</i>
6	感染性胃腸炎	5歳男	高幡	<i>Campylobacter jejuni</i>
7	インフルエンザ	10歳男	高知市	Influenza virus AH1pdm
7	感染性胃腸炎	2歳女	高幡	Norovirus G II
7	感染性胃腸炎	8ヵ月女	高幡	Norovirus G II
7	感染性胃腸炎	1歳女	高幡	Norovirus G II
7	感染性胃腸炎	1歳女	高幡	Norovirus G II

○ **全数報告の感染症情報**

2類感染症：結核 1例（80歳男）《高知市》（今年18例）

○ **高知県の平均気温と湿度（週別）**



○ **定点からの地域ホット情報**

**幡多：**

《幡多けんみん病院小児科》：インフルエンザの2例はA型陽性 RSウイルス感染症で19人が入院中  
 《木俣病院小児科》：カンピロバクター腸炎 1例（10歳男） インフルエンザの2例はA型陽性  
 《さたけ小児科》：インフルエンザの2例はA型陽性 マイコプラズマ感染症 4例（3～7歳女）  
 RSウイルスによると思われる気管支炎（細気管支炎）が増加している。  
 外来でRSウイルスの検査ができるようになることが望まれる。

《松谷内科》：無菌性髄膜炎疑い（発熱，頭痛，頸部痛：中学生2～3名）

**高幡：**

《もりはた小児科》：インフルエンザは今シーズン初めて発生がなかった  
 百日咳の1例（11歳男）は東浜株1280倍，山口株2560倍  
 感染性胃腸炎・RSウイルス感染症が多い

**中央西：**

《石黒小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性 ヘルペス性歯肉口内炎 2例（1歳男）

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の2例（2歳女，3歳男）は須崎市

《土佐市民病院内科》：インフルエンザの2例はA型陽性

#### 高知市：

《矢野小児科》：インフルエンザの4例中1例は予防接種歴あり

《福井小児科・内科》：インフルエンザの3例は全てA型陽性

《けら小児科・アレルギー科》：インフルエンザの8例は全てA型陽性，4例は予防接種歴あり

《塩見クリニック》：インフルエンザの1例はA型陽性

《細木病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性，新型ワクチン2回接種済み

《細木病院内科》：インフルエンザの2例はA型陽性

《近森病院内科》：インフルエンザの5例中2例はA型陽性，1例は予防接種歴あり

#### 中央東：

《野市中央病院小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性，新型ワクチン1回接種済み

《いちほら内科小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性

#### 安芸：

《田野病院小児科》：インフルエンザの1例はA型陽性

### 全国情報第5週（2/1～2/7）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核265例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症22例（有症者14例、うちHUS 1例）

4類感染症：A型肝炎5例、つつが虫病1例、デング熱3例、ライム病1例、レジオネラ症6例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎（C型）2例、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群16例（AIDS 3例、無症候12例、その他1例）、梅毒2例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん2例、麻しん9例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、マラリア1例、レジオネラ症2例、急性脳炎10例、髄膜炎菌性髄膜炎1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例

#### ◆インフルエンザ

北半球の殆どの国々では、新型インフルエンザの活動性の減少が続いている。流行のピークが遅く、最も活動性のある地域は北アフリカ、南および東アジアである。東アジアでは、まだ新型インフルエンザの流行は続いているものの、全体的な活動性は殆どの地域で低下してきている。中国では、新型インフルエンザウイルスと季節性インフルエンザウイルスの両方の流行が続いているが、数週間前からは季節性のB型インフルエンザウイルスが優勢になってきている。韓国では、インフルエンザ様疾患患者の発生レベルが非流行期の水準に近くなってきている。

2010年第5週のインフルエンザの定点当たり報告数は4.26（報告数20,481）となり、2週連続で減少した。定点当たり報告数は、都道府県別では山梨県（10.70）、福井県（10.53）、沖縄県（10.12）、埼玉県（7.61）、静岡県（7.27）、新潟県（6.06）、愛知県（5.93）、福島県（5.83）、三重県（5.50）、千葉県（5.39）の順となっている。定点当たり報告数は、秋田県を除く46都道府県では前週よりも減少がみられ、10.00を超えているのは3県となった。

定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数の推計値は約22万人（暫定値）と減少し、第28週以降これまでの累積の推計受診患者数は約2,028万人（暫定値）となった。性別では男性約1,048万人（51.7%）、女性約980万人（48.3%）であり、年齢群別では5～9歳約511万人（25.2%）10～14歳約471万人（23.3%）、15～19歳約278万人（13.7%）、0～4歳約224万人（11.1%）、20～29歳約215万人（10.6%）、30～39歳約151万人（7.5%）の順となっている。40代、50代は横ばいであるが、その他の年齢群は全て前週よりも減少した。但し、推計受診患者数は、受診患者数の多い医療機関がより多く選定されている傾向があることなどから、真の受診患者数より過大であると考えられている。この点を踏まえ、推計受診患者数についてはあくまで参考値として理解していく必要がある。

第1～5週までの5週間で検出・報告された1,092検体中、AH1亜型0件、AH3亜型0件、B型5件（0.46%）、AH1pdm1,087件（99.54%）と殆どがAH1pdmである状態が継続しており、現在国内で発生しているインフルエンザの殆どは新型インフルエンザによるものであると推定される状態が続いている。

定点からの報告数は、2009年第48週をピークに減少し続け、2010年第3週に一旦やや増加したものの、第5週は第4週に続いて再び減少した。秋田県を除く国内の全ての都道府県で減少がみられており、推計受診患者数をみても、大半の年齢群で減少がみられ、増加した年齢群はなかった。国内の新型インフルエンザの流行は、減少傾向が続いているが、まだ各地域における散発的な流行は存在している。引き続き、季節性も含めたインフルエンザの発生動向には注意が必要であると思われる。

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(6週)	高知県(7週末累計) H22/1/4~H22/2/21
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	2	3	34	3		6	48 ( 1.00)	70 ( 1.46)	13,479 ( 2.81)	2,493 ( 51.94)
	咽頭結膜熱								2 ( 0.07)	443 ( 0.15)	4 ( 0.13)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	1	7	2	3	2	17 ( 0.57)	26 ( 0.87)	4,634 ( 1.53)	167 ( 5.57)
	感染性胃腸炎	27	46	227	48	40	57	445 ( 14.83)	555 ( 18.50)	37,844 ( 12.49)	2,615 ( 87.17)
	水痘	1	5	21			6	33 ( 1.10)	28 ( 0.93)	4,349 ( 1.44)	184 ( 6.13)
	手足口病			1				1 ( 0.03)	1 ( 0.03)	558 ( 0.18)	11 ( 0.37)
	伝染性紅斑		1					1 ( 0.03)	2 ( 0.07)	230 ( 0.08)	9 ( 0.30)
	突発性発疹			2	2	1	2	7 ( 0.23)	8 ( 0.27)	1,451 ( 0.48)	60 ( 2.00)
	百日咳						1	1 ( 0.03)		73 ( 0.02)	3 ( 0.10)
	ヘルパンギーナ	1	1		1			3 ( 0.10)		80 ( 0.03)	10 ( 0.33)
	流行性耳下腺炎			2	1		1	4 ( 0.13)	2 ( 0.07)	2,195 ( 0.72)	32 ( 1.07)
	RSウイルス感染症	3	5	49	9	10	29	105 ( 3.50)	99 ( 3.30)	4,355 ( 1.44)	532 ( 17.73)
アフター性口内炎								1 ( 0.03)		13 ( 0.43)	
眼科	急性出血性結膜炎									16 ( 0.02)	
	流行性角結膜炎			2				2 ( 0.67)	1 ( 0.33)	329 ( 0.48)	5 ( 1.67)
基幹	細菌性髄膜炎									10 ( 0.02)	
	無菌性髄膜炎			1				1 ( 0.14)		10 ( 0.02)	1 ( 0.14)
	マイコプラズマ肺炎			1				1 ( 0.14)		141 ( 0.31)	4 ( 0.57)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									5 ( 0.01)	1 ( 0.14)
計 (小児科定点当たり人数)	36 ( 17.50)	62 ( 8.70)	347 ( 30.22)	66 ( 21.60)	55 ( 27.50)	103 ( 20.15)	669 ( 21.57)				
前週 (小児科定点当たり人数)	34 ( 16.75)	101 ( 13.70)	367 ( 32.28)	82 ( 26.67)	50 ( 24.25)	161 ( 31.33)		795 ( 25.59)	70,202	6,144 ( 173.27)	

定点当たり

第7週

定点名	医療圏 疾病名	安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週
			中央東	高知市	中央西				
内科・小児科	インフルエンザ	0.50	0.27	2.13	0.60		0.75	1.00	1.46
	咽頭結膜熱								0.07
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.14	0.64	0.67	1.50	0.40	0.57	0.87
	感染性胃腸炎	13.50	6.57	20.64	16.00	20.00	11.40	14.83	18.50
	水痘	0.50	0.71	1.91			1.20	1.10	0.93
	手足口病			0.09				0.03	0.03
	伝染性紅斑		0.14					0.03	0.07
	突発性発疹			0.18	0.67	0.50	0.40	0.23	0.27
	百日咳					0.50		0.03	
	ヘルパンギーナ	0.50	0.14		0.33			0.10	
	流行性耳下腺炎			0.18	0.33		0.20	0.13	0.07
	RSウイルス感染症	1.50	0.71	4.45	3.00	5.00	5.80	3.50	3.30
アフター性口内炎								0.03	
眼科	急性出血性結膜炎								
	流行性角結膜炎			2.00				0.67	0.33
基幹	細菌性髄膜炎								
	無菌性髄膜炎			0.20				0.14	
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.14	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								
計 (小児科定点当たり人数)	17.50	8.70	30.22	21.60	27.50	20.15	21.57		
前週 (小児科定点当たり人数)	16.75	13.70	32.28	26.67	24.25	31.33		25.59	

## 2010年週報推移(定点当たり)

